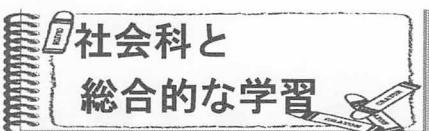


# データ アラカルト

新しい指導要領では、教科と総合的な学習の役割と連携を、今までより明確にし、強調しています。そこで当連盟は、これまでに、具体的な授業場面を想定しながら、学習会や会報誌等で研究を重ねてきました。

第3章では、これらの足跡をまとめたものとして、社会科・国語科・算数科・理科の各教科と総合的な学習のつながりについての特集記事や自由研究のアイディア、また新指導要領を受けた授業改善の方向性についての座談会の模様を掲載します。

なお、学校名は取材当時のものです。



(札幌市立簾舞小学校教諭 附田 裕哉氏)

学習内容を設定する上の大切なポイントとして附田氏は「学び方」に着目しています。

社会科の学習内容を総合的な学習に発展させることを考える場合、大目にしなければならないことがあります。それは「ものの見方・考え方」ということです。「生き方を考える」ことにつながる「ものの見方・考え方」が育つならば、社会科発展の総合的な学習も大いに実践すべきです。

## ☆社会科と総合的な学習の学習過程や学び方

つまり、附田氏は総合的な学習の究極のねらいでもある「生き方を考える」ためには、社会科で培う「ものの見方・考え方」を、さらにでも広く深く発展させるような学び方をしなければならないと述べているのです。

受身的であり、指示されなければできない、同じことを繰り返し、考え方が平面的である……。こういった子どもが現実問題として増えています。学ぶ楽しさは表面的な楽しさなのではなく、「こういう方法もあるんだな」「○○と△△は関係があったんだね」といった、問題を解決しながらものの見方・考え方を獲得していくこと。そしてさらに追究に勢いを増し、本気で知的な追究をしていく……そういうことないでしょうか。これらは社会科でも総合でも大切にしたい共通の学び方であろうと考えます。

